

ひかりのこ

7月園便り

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2024年6月25日

月主題：こちよく

「いちご狩り」

6月18日から25日にかけて、クラスごとのいちご狩りが行われています。

私は初日の18日、ぱんだ組さんと共に行ってきました。

畑は、江別の正木農園。たくさんのビニールハウスを持っている農園です。他にいくつかの江別の幼稚園が来ていましたが、幼稚園ごとにそれぞれのビニールハウスでいちご狩りができるので、子どもたちの動きがよく見えて、安心でした。

子どもたちは、担任の先生からの注意事項をよく聞いて、みんなでいつものお祈りを少しアレンジし「てーんのおとうさま、いまここにいただくいちごをかんしゃしますー。」と大きな声で歌い、いちごを食べ始めました。まだ大きないちごが多く、子どもたちは器用にいちごを茎から外し、おいしそうに食べていました。自分が食べるだけでなく、おいしそうないちごを見つけて、車いすのお友達や、先生たちに届けてくれるお友達もいました。一体なぜこんなに？と思うほど、手と口の周りがいちごの汁だらけの年少さんもいました。

どの子も時間いっぱいまでたっぷりいちごを食べて帰りました。長い冬がうそのように、緑と、果実があふれる北海道の短い夏の到来。自然の中で、子どもも大人も心を開放する一日でした。神様に感謝です。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「デカケルトキハウスレズニ」

夏を感じる暑さが感じられる日が増えてきました。中には、「ひとりで遊びに行きたい！」と積極的に一人行動を試みるお子さんもおられるかもしれません。

今すぐではなくとも、ひとりひとりの近い未来にそのような時が来ます。大人の私たちなら誰でもその時を経て今の自分がいます。でも、自分がいつから、どうやってひとりで出かけられるようになったか覚えている人は少ないかもしれません。自転車にひとりで乗れるようになるために、ひとりで買い物にいけるようになるために…。誰かの手を借りて、背中を支えてもらわなければ前に進めなかった自分がいるように、自分の力だけで進めるようになる前に、導いて見守ってくれる人の存在は不可欠です。

繋いでいた手をいつ離すことが正しいという正解はありません。確かなことは、ひとりで行動するために、自分の身を守るために必要なことを、手を繋いでいてあげられる間に少しずつ伝えておかなければならないということです。いつかその時が来た時のために。

「強く、雄々しくあれと、私はあなたに命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行っても、あなたの神、主があなたと共にいるからだ。」（ヨシュア記 1:9）

チャプレン 司祭 上平 更